

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 子どもたちが嬉々として登校し充実感に満ちて家路につく学校 ~みんな友達 笑顔の原小~ |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 自ら課題をつかみ、主体的・協働的に学ぶ児童の育成 2 心身ともに安心・安全な学校生活の構築 3 コミュニティ・スクールを活用した目指す児童の姿への方策の共有と行動 4 風通しの良い職場づくりと、教職員の共通理解の下に取り組む業務改善 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校運営協議会による評価 | | |
|--------|--|--|---|--|-----------|-----|--------------|---------------------|--|
| 年度目標 | | | 年度評価 | | | | 実施日 令和 年 月 日 | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | <現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○9割以上の児童が、授業を通してできるようになったことがあると達成感を感じている。 ○ペアやグループでの活動に意欲的に取り組む児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果から、国語の書くことや算数の数学的な考え方など、思考力や表現力で苦手意識をもっている傾向が見られる。 ○3割ほどの児童が、進んで発表することに苦手意識をもっている。 ○コンピュータリテラシー教育、ネットリテラシー教育の充実に関し更に努める必要がある。 | ・自ら課題をつかみ、主体的・協働的に学ぶ児童を育成する授業改善 | ①これまでの校内研究の成果をもとに、主体的・協働的に学ぶ児童の育成を目指し、各教科領域での授業に具体的手立てを位置付け、授業改善を実施する。 ②さいたま市アクティブラーニング型授業の実践を継続するとともに、学習の振り返りを重点に据えて授業改善を行う。 | ①一人ひとりの教員が、具体的な手立てを明確に位置付けた授業を実施することができたか。 ②学校課題研究における児童の実態調査で、各項目の肯定的評価に向上が見られたか。 ③各学級の授業で、振り返りを授業に位置付けた実践をすることができたか。 | | | | | |
| 2 | <現状> ○児童アンケートでは「学校に楽しく通っている」の質問に対し、肯定的回答が95%である。 ○いじめの覚知、認知、対応は組織的に行なっている。 ○リフレッシュ工事に伴う校舎・設備の使用制限や環境変化により、教育活動に影響をできるだけ与えぬような調整をする必要がある。 <課題> ○児童のさまざまな困り感を適切に把握し、専門職や外部機関とも連携しながら迅速に組織的な対応を継続していく。 ○校舎のリフレッシュ工事に伴い、教育活動を停滞させない環境の整備と、現状の環境下でも充実した教育活動を継続することが課題である。 | ・安全安心な学校生活の充実 ・教育環境の維持と工夫改善 | ①毎月定期的情報共有を行うと共に、随時情報共有を行う体制を推進することで、児童の状況を細やかに把握し、迅速に保護者との連携も図りながら、丁寧に、組織的に支援や相談を行う。 ②専門職による教育相談についての案内の発信や相談の調整、教育相談日の設定等を継続して行い、学校に相談しやすい環境を整備する。 | ①各学級でタブレット学習を定期的実施することができたか。 ②個別最適化のためのツールとしてのタブレットを活用した授業を、一人ひとりの教員が実践することができたか。 | | | | | |
| 3 | <現状> ○令和4年度は、学校公開の機会に限られ、学校評価のアンケートでも「判断できない」という回答が多く見られた。 ○学校運営協議会準備委員会において「豊かに関わる子どもたち」を目指すための具体的方策について熟議を重ねた。 <課題> ○学校公開の機会と情報発信を充実させ、保護者・地域が、更に学校に関わることができるようにすることが課題である。 ○コミュニティ・スクールとしての具体的方策の具体化が、今後の課題である。 | ・目指す児童像を具現化するための、具体的方策の実践 ・目指す児童像を共有するための、学校公開やICTの活用 | ①学校運営協議会で熟議を重ね、目指す児童の姿を具現化するための具体的方策を策定する ②目指す児童の実現に向けた活動を推進するために、委員会や児童会を中心に、互いに顔の見える交流活動を、ICT等を活用し企画、実践する。 | ①学校運営協議会での熟議を通して豊かに関わる子どもたちの姿を実現するための活動について具体的に計画し、関係団体等の協力を得ながら実践をすることができたか。 ②学校自己評価の教員アンケートにおいて「学校と保護者、地域との連携」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上になったか。 | | | | | |
| 4 | <現状> ○エバンジェリストを中心に情報端末の効果的な活用について研修と実践を重ねている。 ○学校全体としても個人レベルでも、働き方の効率化への工夫を模索している。 <課題> ○ICTの活用の更なる工夫改善。 ○不断の授業改善に取り組むための業務改善の具体的な方策の検討と実践の推進。 | ・授業改善研修の充実と業務改善策の具体化 | ①一人一人の教員が目指す児童像を理解し、その具現化に向けた授業を年間1回以上公開する。 ②業務改善委員会を毎月1回開催し、具体的提案を検討する。その内容を、全教職員で共有し実践する。 | ①目指す児童像と具現化に向けた手立てを明確に位置付けた授業(教科等は問わず)を、80%以上の教員が1年間に1回以上公開することができたか。 ②業務改善委員会からの具体的な提案を、全教職員が共有し、実践するとともに、効果の検証を行うことができたか。 | | | | | |